

「初等外国語の指導法」の成果と課題

英語教育講座・池野修

1. 授業の概要

「初等外国語の指導法」は、「教科又は教職に関する科目」の枠にある3年次前学期開講の科目であり、次のような内容をもつ授業科目である。

小学校「外国語」「外国語活動」を担当する教員に必要される専門知識・技能（基礎）の基礎の習得を目指す。これまでの小学校英語、学習指導要領、「外国語」「外国語活動」の授業や単元の構成、評価のあり方、小中高連携、児童や学校の多様性への対応などのトピックについて学び、授業実践DVDを活用した授業分析、学習指導案の作成、様々な英語活動の体験、模擬授業などを通して、授業構想力や授業省察力などを向上させる。

2. 授業の評価

2.1. 授業評価方法

「初等外国語の指導法」は、昨年度の授業評価・授業研究報告書でも取り上げ、授業目標の達成度や扱った内容の有用性などについての数量的データを基に報告した。今年度の報告では、この授業の優れた点や改善への提案などについて、関連の自由記述データ（61名の受講生からの回答）に基づき考察を行うことにする。

2.2. 授業の優れた点

全体的に、この授業は高い評価を得たと言えるが、特に「活動体験→ねらい、指導上の工夫、留意点の考察という流れ」や「多様な人との関わり合いを生む工夫」などについての回答が多かった。「活動体験」については、例えば以下のようなものが含まれていた。

- ・ 活動の例示が多く行われた点。外国語活動で意義のある活動とはどのようなものがあるか体験する中で知ることができた。また、自分の意見や考えをアウトプットする機会が多くあり、なぜそうなのかまで深く考えることができた。
- ・ 1つ1つの活動で子どもたちが何を感じるかを体験的に知ることができました。
- ・ 小学校で行われる外国語活動の中での活動を、ビデオを見たり、実際に体験をすることによって、その意図や利点、行うにあたって

注意すべき点を主体的に考察することができたと思う。

同じ情報を提示するにしても、その提示のタイミングによって学びの質は変わってくる。特に、最初から抽象的な知識を受講生に与えてうまく理解してもらえない場合が多い。この授業においては、簡単な説明→活動体験→解説（知識提供）という流れがうまく機能したと考えられ、それを表す回答が多く見られた。なお、体験した活動自体の有用性についても、「実習ですぐ使える内容であること。実践的な学習が多かった。実際現場に立った際に使うことのできるテクニックがたくさんあったため、積極的に利用していきたい。」というような回答が数多く見られた。

また、「外国語（活動）」で大切にしていることの1つが様々な人との関わり合いであるため、この「初等外国語の指導法」の授業においても、毎回ペアやグループを変更するようにした。出席カードに所属グループを記しておき、受講生をランダムにグループに割り当てる方法を用いた。このことについても肯定的な回答が多く見られ、以下はそのいくつかである。

- ・ グループが毎時間異なるので多くの人とコミュニケーションをとることができました。
- ・ 毎回グループを変えるのも、普段話さない人と話すことができてよい。
- ・ 多くの人と話す機会があるのも、いろいろな視点や考えに触れて学びを深めることができた。

授業の優れた点については、他にも様々な回答があったが、授業者として気になったものとしては、「スマホ禁止を徹底していて、集中して学習に取り組めるようにしていた点。」という内容の回答が2名の受講生からあったことである。授業中のスマートフォンの使用については、(i) 授業で行う活動や話し合いに集中させたいこと、(ii) 教育実習直前の学期であり、実習で許可されていないことに普段から慣れさせたいことが理由で、原則禁止とした。（正確には、受講生に「目的外使用はダメ」と伝えていた。）この方針を支持する自由記述

回答があったことは、授業者としては喜ばしいことである。しかし同時に、このことによってスマホで情報をメモしたり、調べ物をしたりすることが制約されたのは確かである。来年度この方針を維持し続けるかどうかについては、改めて考えてみるつもりである。

2.3. 改善への提案

「あなたがこの授業の担当者であれば、具体的に授業のどこをどのように変えますか。なぜですか。」という質問を行い、受講生に授業改善への提案を求めた。気になったものをいくつか取り上げると次のようになる。

- 学期の前半は活動メインで、単元ごとに分かれていたので、単元1つ学習した後に、自分だったらどのような活動を行うか、書き出させるということを行うと思う。
- 自分で考えた活動を班員にやってもらうなどの創作の活動を少し取り入れて欲しかった。
- ムードルに配布資料とスライドを毎回載せる。
- 出席シートのテーマを毎回決めて書かせることで、学んでほしかったことがより伝わるのかなと思うので、テーマを決めて書かせます。
- 毎回の出席シートにただ単に授業の感想を書かせるのではなく、授業ごとの自分だったらどのような授業にするかというようなテーマを決めて書かせるようにする。
- 先生のおっしゃる通り、授業時間外学習はほぼゼロでした。授業中に扱った動画を見て、その教材の活用法を考える等の課題は出して良かったのかなと思います。
- 発音の練習をもう少しできればよかったと思う。毎回の授業で5~10分くらい時間をとっておけばよかったのではないかな。
- 何も見ずに英語を話すことができるレベルの学生はこの授業を履修している中でもほんの一握りだと思う。活動の際には英語のみ話すことができるようにする。そうすることで、自然とジェスチャーなども増え、考えることを増やすきっかけにもなると思う。
- ティーム・ティーチングの練習をする意味で、本物の外国人講師の方との授業があるとよい。
- 男女で分けない（性的マイノリティ）。

これらの提案を全て実現できる訳ではないが、来年度この授業を実施する際には、次のような改

善を行いたいと考えている。

- 教員が準備した活動をこなすだけではなく、受講生にオリジナル活動を考えてもらい、それをグループの他のメンバーに発表するような機会を設ける。
- 授業資料をムードルにアップロードして、受講生が活用できるようにする。
- 授業までにやっておく課題を与え、授業時間外学習を充実させる。
- 出席シートに書く振り返りについて、「何でもよいから」ではなく、内容を焦点化する。
- 毎回の授業で少しずつ英語発音練習やスモール・トークの練習を行う。

ALT とのティーム・ティーチングの練習は、重要ではあるが、実現は難しい。模擬授業については、行うのであれば、代表者ではなく全員が実施すべきであると考えているが、60名を超えるクラスでそれをどのように実現するかは難しい課題である。

3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業は、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」に関する内容を多く扱ったとは言えないが、愛媛県の小学校外国語の現状に関する情報を提供したり、県下での授業実践を紹介したりしたことはそれに該当すると考えられる。